

週刊大貫のり夫

市政ファイル No.310



日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2011年9月21日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6

日本共産党横浜市議団が市長に申し入れ

保育所の面積基準を低くしないで！

厚生労働省は2日、待機児童問題が深刻な地域として認可保育所の面積基準の緩和を特例的に3年間認める35市区名を告示し、横浜市も対象自治体となっています。

日本共産党横浜市議団は9日、「認可保育所の面積基準緩和を行わず、保育水準の維持・拡充を求める申し入れ」を林市長に行いました。



保育所待機児童は

897人

横浜市の待機児童数は、今年5年ぶりに減少したものの、4月1日現在で971人です。市は待機児童解消に向けて保育所を増設しており、今年度は46園の新增設などで約3000人の定員増を行っています。

申し入れ書を鯉淵こども青少年局長(右から2人目)に手渡す(左3人目)私・大貫憲夫=9日、横浜市役所

(2面に続く)

ブログ www.ohnuki-norio.jp/ 検索

狭い保育室にこれ以上つめこむな！

申し入れでは、待機児童解消の名のもとで、いまでさえ低い面積基準をさらに低くし、これ以上の「つめ込み」保育をすることは、保育の質の低下につながり、子どもの発達に影響するとして、認可保育所および横浜保育室の面積基準の緩和を行わないこと、認可保

育所を増設することなどを求めました。

対応した鯉淵信也こども青少年局長は、「待機児解消に向けてがんばっている。面積基準については、できるだけ緩和を行わないようにしたいと思っている」と応じました。

認可保育所の面積基準緩和を行わず、 保育水準の維持・拡充を求める申し入れ（骨子）

現行の保育所面積基準は、1歳までが1.65平方メートル（ハイハイできるようにすると3.3平方メートル）、2歳以上が1.98平方メートルです。この基準は戦後60年にわたって改善されておらず、対象面積に廊下などを含むため、実際の活動スペースは基準面積を確保するものとはなっていません。

厚労省の委託で全国社会福祉協議会が行った研究では、2歳未満で1人当たり4.11平方メートル、2歳児以上で2.43平方メートルが必要だと結論づけています。

本市独自で認定している横浜保育室の保育室面積基準は国基準と同等ですが、もちろんこの基準も守るべきです。

今、必要なことは、国と自治体の公的責任において、保育・子育て支援を拡充し、すべての子どもに質の高い保育を保障することです。

そこで、次の項目について、強く申し入れます。

記

1. 認可保育所および横浜保育室の面積基準の緩和を行わず、現在の保育水準を維持・拡充すること。
2. 保育所の待機児童解消のために、認可保育所を増設すること。
3. 特に低年齢児の待機児童解消に大きな役割を果たしている横浜保育室への基本助成費を増やすこと。

横浜市が認可保育所の保育料の値上げを検討

横浜市は9日、認可保育所の保育料を7年ぶりに値上げする方向で見直しの検討をすることを明らかにしました。

これは、市長の諮問機関「保育料等のあり方検討委員会」の提言を受けてのことです。委員会では、保育所入所定員の増などに伴って保育所運営費が年々増加し、今後待機児童対策を進めることから、保育サービスにかかる経費の増加が見込まれること、認可保育所と他の保育サービスを比較すると所得階層ごとの保育料に格差があることなどから、安定的な保育サービスの提供と、各種保育サービスについての負担の公平性を確保する観点から、保育料等の利用者負担のあり方について



検討してきました。

あり方検討会の提言を受けて、横浜市が行う見直しの内容は、

○認可保育所の保育料の平均8%値上げ

所得階層区分に応じて0~25%程度、金額にして0~15,000円程度。

○第2子の保育料の軽減を拡充

○横浜保育室の保育料軽減助成を拡充

認可保育所に比べて、特に低所得層の保育料に対する負担感が大きい横浜保育室の保育料軽減助成を拡充。

今後、来年2月議会の予算案の審議を経て、同年4月から新しい保育料を適用する予定です。

放射能汚染から、子どもと国民の健康を守るには！ ご一緒に考える集い

日時 2011年10月9日(日)午後2時~4時

場所 青葉公会堂2F 1・2号会議室

お話しする人 八木 功さん(元通産省主任研究官)

田村智子参院議員

司会 大貫のり夫横浜市議員

資料代 200円 詳しくはTEL902-6540(あざみ野事務所)

おおのり
通信

がんばる青年職人

みなとみらい21展示ホールで腕の競い合い



わき目も振らずがんばる競技者のみなさん

みなとみらい21展示ホールで20日、建設労働者の組合の全国組織・全国建設労働組合総連合(全建総連)主催の「第27回全国青年技能競技大会」が開かれ、国内35都道府県の予選を経た78人が日ごろの職人の腕を競い合いました。当日、私も見学に行きました。

競技は課題図に示す支給材料を用いて仕様概要に従い「四方転び踏み台」を製作するもので、図面

引きから始まり、6時間内に仕上げるといふものです。

今、全国の青年技能職が激減しています。家も、軸組みなどの在来工法から、プレハブやツバイフォーなど工場で組み立て資材をつくり、現場で組たてるやり方が主流になり、在来工法の伝承が大切な課題になっていることから、この青年技能競技大会は内外から大きな期待が寄せられています。



競技者の奮闘を見学する私



ミジソコの独り言 二百十日より二百二十日の方が台風の来る確率が高いそうだ。そういえば、立春から数えて210日目の9月1日は台風到来にはちょっと早め。台風はあちこちに被害をもたらすやっかいものだが、四季折々の豊かな日本の自然を形成するには欠かせないものなのだろう。3.11の大震災を受けて避難訓練への関心が高まっている。積極的にご参加を！(M)